

小学校の元校長先生の望月さんは、分刻みで作られたフェアの進行表を取り出し、「こんな見たことありませんでしたよ。イベントに役立つから、ずっととっておきます」と言った。入交さんの献身的な努力を物語るエピソードだ。200人の参加者を予定していた、「第1回大分・安心院スローフードフェア」には、結果として300人が集まり、大盛況のまま幕を閉じた。

ヨーロッパへの視察研修も行った。安心院町のグリーン・ツーリズム関係者とともに、ドイツ、スイス、イタリアを回り、ドイツでは本場アッカルン村のグリーン・ツーリズムを視察した。アッカルンは安心院町の人たちがグリーン・ツーリズムのモデルとした地だ。「私は、全然違うものだと思います。追いかけて追いつくものではないというか、別ものとしての目標ですね。あちらでは、農泊が



視察研修、スイスのカーニバルにて

マチの人たちの生活の一部に見えます。バカンスでもあるけど、古い友人を訪ねに立ち寄るような、日本よりもっと気楽で、慣れ親しんでいる印象ですね」（入交さん）。

その辺が日本におけるグリーン・ツーリズムの課題だろう。日本ではその意味と意義がまだまだ理解されていない。「グリーン・ツーリズムをよくわかっておらず、対応に困るお客さんもなかにはいますし、安宿だと思ってくる人もいます。農泊では障子1枚隔てて家の人がいるわけですから、そういうお客さんは困りますね」と植田さんは語った。

短期間とはいえ、メディアで働いた経験があり、コンピュータを使えることから、当初はインターネットなどを活用した情報発信を期待された入交さん。それは、宮田さん、植田さん、望月さんとも口を揃えて語っている。植田さんは「残念だけど、他のことで忙しく



イタリア農泊家庭にて



NPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会事務局長の植田淳子さん

違いですね」と植田さんが指摘するように、積み重ねてきた成果は確実に出てきている。

このように、宮田さんと植田さんは、さらなる安心院町とグリーン・ツーリズムの発展のために挑戦を続けている。植田さんは「グリーン・ツーリズムの売りは、地元にあるものを活かしてお客さんに喜んでもらうことです。（安心院町の豊かな農産物を活かして）今後の10年は『食』に焦点を当てていきたい。そして10年後は、もっと気軽に足を運べるところになっていると良いですね」と語る。

また、宮田さんは「今後は修学旅行以外のお客さん、例えば企業などの新入社員研修などの研修生も呼びたいですね。そして、新しい人に加わってもらって、スタッフ各々が長期休暇をとれる体制にし、また、今の入交さんの（事務的な）仕事をやってもらい、入交さんには外に出てもらいたいです」と新たな展開を考えている。ビジョンの広がりとともに新たな生業も生まれているのだ。

大きくなり続ける安心院町の人々の夢と同

で、これまであまりやってもらえなかった。今は、試行錯誤しながら一緒にやっているところですよ」と言う。マチを知り、ムラに溶け込める入交さんであれば、「農泊を広めたいけど、理解できる人に来てほしい」という植田さんのリクエストを上手にこなせるかもしれない。

マチより少ない給料でも 生活の心配をしなくてすむ

仕事は大変充実しているようだ。生活はどうだろう。ムラでの生活を探ねると、「農泊家庭のみなさんから服をもらったり、新鮮な食材やおいしい手料理をもらったり、すごく恵まれています。自分で食事を作り置きしておいても、それを食べる暇がないくらい。そもそも外食に食べに行くところも少ないし、食費は月3000円くらいです」（入交さん）と語った。役場の近くにアパートを借りているが、3万円くらいだ。福岡で就職したときよりも給料は30%ダウンだが、日々の生活の心配はないと言う。

すっかりムラの住人として、また事務局の大切なメンバーとして定着した入交さんは、研修終了後は正社員として事務局に残るつもりだ。望月さんは、激務に一時体調を崩された植田さんのことを慮る意味もあって「1人に全部やらせてはダメですね。補助金なども

じく、入交さんも立ち止まらない。入交さんの最終的な目標は、安心院町のような農村からさらに1歩奥へ入った、山村を守ることだ。「山が管理されているから、農村も漁村もマチも守られているんです。マチの人、特に若い人に山を守って生きている人々を知ってもらいたい」（入交さん）。そのために描いた、第1歩としてマチとムラを繋げ、「食」と「グリーン・ツーリズム」で、マチの人たちに田舎を好きになってもらうということ。入交さんの夢は、確実に動き出している。

入交さんから

ワンポイントアドバイス

笑顔でいること、拒否をしないことが大切です。決して積極的で喋り上手じゃなくても、自分から好意を表して歩み寄ってあげれば、「難しい」と言われている人でも、大丈夫です。